

原実を次世代へ

班のテーマ

班氏名 岡木 佑哉、宮 千幸、熊倉 慶太、吉岡 奥音、平澤 明寿香、石黒 礼人

出発前に平和について思っていたこと

日本では戦後、憲法改正や非核三原則などで平和を大切にしているが、世界では今も戦争が続いている。戦争も人の手で始まっているから平和も人の手で守っていくことができる。平和を守るためには、まずは自分から動く必要がある。

1日目に感じたこと、思ったこと

私が印象に残ったのはささきさだむの話だ。14kmも爆心地から離れたのに家は倒壊。家族の中には下きになり圧死した人がいた。さだむは早く生き残り10年間元気に生きていた。しかし突然発熱。実は原爆の影響による白血病だった。この話を聞いて私は、原爆による直接的な死ではなく、ただの風にまで命を奪われ、しかも奇蹟的に助かり10年間元気に生きても結局原爆が原因でなくなる。改めてほんとうに原爆は怖いものだと感じた。



2日目に感じたこと、思ったこと

毎年の平和記念式典で折り鶴が約1000万羽集まることを知り、多くの人が平和について関心を持っていると思った。また、被爆者の平均年齢が85歳なので、若い僕たちが伝えていきたい。



3日目に感じたこと、思ったこと

平和記念資料館に行った。展示の中に、中学生の破れた制服があった。戦争中、私達と同じ中学生は働いていて、原爆が投下された日も多くの人達が働いていた。たくさんの方が被害にあい、亡くなった。これを聞いてとても胸が締めつけられた。戦争とは無関係の人達の命を一瞬で壊す恐ろしいことだと思った。



広島派遣を終えて、今平和について思っていること

この広島派遣事業を通して、平和はお金などにかえられない、かけがえのないものだ学びました。現在も、ウクライナ侵攻やパレスチナ・イスラエル戦争などによって世界中で多くの尊い命や日常が失われています。争いによって失うものと得るものとは、どちらが多いのでしょうか。悲劇は次の悲劇を生みません。世界中の人々が紐とペンをもち、同じ方向を向いて平和について考えていくことこそ、絶えない笑顔や平和につながっていくと私は信じています。

班のテーマに対するまとめ

- 原爆により広島は1日で焼け野原になった。
- 戦後、放射線の影響で原爆病や白血病で多くの人が苦しんだ。
- 今でも世界では、紛争や核問題がある。
- 戦争を風化させないために私達ができることは、今回の体験を周りの人に伝える、平和活動への参加などの積み重ねが平和への一歩につながると思う。